ピア・サポート活動を大学に根づかせるために
—サークル活動としての実践—

桑田 良子 [1] 植草学園大学発達教育学部
大木 みわ [2] 植草学園大学発達教育学部

Encouraging the Growth of Peer Support at University:
A University Circle Activity

Yoshiko KUWATA Faculty of Child Development and Education, Uekusa Gakuen University
Miwa OKI Faculty of Child Development and Education, Uekusa Gakuen University

社会全体が不安定で、混とんとしている今日、大学をお互いが助け合い、支えあえる集団にすることができれば、学生にとって大学は安心・安全な場となる。そうした安心できる環境を学生に提供する活動の一つにピア・サポート活動がある。日常における悩みを気軽に相談できることから、その活動は各大学において少しずつ広がりを見せている。
本大学でもこのピア・サポート活動を取り入れたいと考えピア・サポートサークルをたちあげた。今回、大学での実践をまとめ、その成果を検証することで、ピア・サポート活動を根づかせるための方策を聞く機会にしたい。
キーワード：ピアヘルパー、ピア・サポート、ヘルピー、安心できる環境

Nowadays our modern society is full of tension and instability. In this situation, therefore, if university students can help and support each other in their daily life, their university will surely become a relaxed and stable place. Peer support is one activity that can encourage the growth of such an environment. This kind of activity is gradually increasing due to the fact that students are able to talk casually about their daily worries. We founded a circle to implement peer support activities in our university. This report summarizes the practice and evaluates the results, giving some idea how peer support activities are taking root in Uekusa Gakuen University.
Keywords: peer helper, peer support, support person, relaxed environment

1. はじめに

最近の大学は、100%全入の時代を迎えたこともあり、多様な問題をもつ学生が増えている。神経的な問題、発達障害のある学生だけでなく、新しい環境になかなか適応できない学生たちである。こ
な簡単なことを人には聞けないと未解決のまま、心に貯めてしまい、どうにかななくて、意を決し相談窓口を訪れた時には、すでに問題を大きくしてある、相談にあたった誰もが、もう少し早く支援を求めてくれればと思う瞬間である。相談を受けなかったり、相談が遅れたりしてせっかく入学した大学を、不全感をもったまま辞めていく学生がいるのは誠に残念である。

相談の散居を低くし、早期に問題解決に結びつく方法が模索されている。

どの大学でも学生支援は、大学職員、カウンセラーが主になり、行っている。しかしながら、教員の仕事は年々増加しており、学生がもつ問題に気づいても、時刻的にも物理的にも学生のニーズに十分応えることは難しい。そのために学生の協力が必要となってきている。学生の協力の一つとしてピア・サポート活動がある。

ピア・サポートとはもともと薬物・アルコール・ギャンブルなどの依存症や社会的弱者であることに悩む人々に対して、かつて同じ悩みを抱いていた人や現在も同じ悩みを抱く人同士が、支え合い助け合って解決を図る活動をさす。孤独感を伴う心のケアに有効とされている活動である。大学での活動は、新入生の学生生活への支援や大学になじめない学生を先輩学生が支援することが多い。

日本学生支援機構が2010年に行った調査によれば、ピア・サポートを実施している大学の割合は35.6%に上がり、2005年の12.9%から大幅に上昇している。国立大学ではほぼ6割、私立大学で3校に1校が導入している。

本大学は、新設5年目を迎えた大学であるが、日本教育カウンセラー協会が主催するピアヘルパーの資格試験の会場校になっている。平成23年2月、大学としては初めて10名の合格者を輩出した。ところが資格取得をした学生のための実践の場は用意していなかった。そこで、ピアヘルパー有資格者を核にして、学生によるピア・サポート活動を活発にすることができれば実践の場ができると考えた。相談者（ヘルピー）にとっては気軽に相談できる場ができ、ヘルパーにとっては彼らのもつ実践力を育み伸ばす機会となる。双方にとって有益な試みと思われた。

さらに翌年24年2月には33名の合格者を出した。

このような合格者の増加を受け、学生によるピア・サポート活動を大学に根ざすためにはどのような体制づくりがいいか、どのような活動ができるのかを学生とともに考え、活動の普及を図ってきた。今後、このような活動を発展させるためには、今までの活動を振り返りこれからの方向性を考えることが必要と思われる。

2. 方法

今回は24年2月から24年11月までの活動をまとめ、実践報告とすることで、よりよい活動のあり方を考えてみたい。

3. ピア・サポート活動を行うことのメリット

本大学は23年度より全学年が在籍するようになっただけ学生数が増えるにしたがって、学生への支援内容を多様化している。

ピア・サポート活動を活発化することがでれば、学生の諸問題の早期発見、早期解決につながり、大学生活そのものが安心できるものになる。また、以下のメリットがある。

(1) ピアヘルパーの資格を修得した学生にとってのメリット
① 実践を通してカウンセリングスキルを高めることができる。
② ピアヘルパーの有資格者であるというプライドや自信を持って学生生活を送ることができる。また、ピアヘルパーとしての活動を経験することで、知識を生かすことができる。
③ 学年を超えての人的交流が深まる。
④ 後に続く学生にとってのモデルになる。
⑤ ヘルパーとなることで自分の潜在的な行動力に気づく。

(2) 大学にとってのメリット
① 支援を必要とする学生が毎年入学してくる現状に対して、教員の支援だけではニーズに十分こたえることが難しい。そうした時に、学生の協力を得やすい。
4. ビア・サポート活動を根づかせるための方策

方策として以下の5点を考えた。

(1) ビア・サポート活動を軌道にのせるためにサークルとして立ち上げる。

(2) 学生のもつ相談ニーズを把握する。

(3) 学生（ヘルピー）のニーズと、ヘルパーである学生たちができるビア・サポート活動をしり合わせ、活動計画を練る。

(4) 広報活動を行い大学にビア・サポート活動があることを知らしめる。

(5) 研修活動を充実し、ヘルパーの資質の向上をはかかる。

これらを実践するに当たっての留意点は次の6点とした。

(1) ビアヘルパーとしての活動が基本的に学生生活の中で負担にならない程度とする。

(2) 自分の限界を知って活動すること。難しい問題は教員に相談できる体制を確保する。

(3) 絶対に一人で問題をかかえこまない。

(4) 相談の秘密は厳守する。

(5) 相談にあたる時間は1回20分以内とする。

(6) 学生主体の、継続的な活動を行う。

5. 具体的実践

5.1 ビア・サポート活動を軌道にのせるためにサークルとして立ち上げる。

学生のやる気とビア・サポート活動を結びつけるためには、教職員からの働きかけが必要と考え。22年度末にビアヘルパー資格を取得した10人にサークル設立を提案した。学生7人によって、サークル「ぎりぎり」ビアヘルパーの会が23年度に立ちあげられた。しかし、この年は17人数が少ないため、活動をうまく軌道に乗せることができなかった。その反省のもと、24年度は現実性、具体性を重視して活動に取り組むことにした。

学生成立により、ビアヘルパー資格合格証を取得したことを誇りに思い、もてがめのことが重要と考えた。

5.2 学生に自信と誇りを

(1) ビアヘルパー資格合格証授与式の開催（24/3/28）

授与式では①一③の内容を実施した。

① 日本ビア・サポート学会コーディネーターによる講話

ビア・サポート活動の精神とそのめざす活動について講演を行った。千葉県におけるビア・サポート活動の実態、資格を生かして活動している他団体、他大学の実態を紹介した。そして、本大学でも資格を大学生活に生かしたいこと、有志による活動が望まれるような話をし、学生のやる気を喚起した。

② 活動カードの配布

このカード（図1）は、活動記録簿である。使い方は、大学、その他の場所においてビア・サポート活動をした時、担当職員、もしくはサークル顧問に申し出て印を受けるシステムになっている（10回記録できる）。活動カードが印で一杯になった時にはサブライズがあること。また、卒業時に表彰対象となることを説明する。活動結果が目に見える形になっているので、励みになろうと考える。
5.3 学生のもつ支援ニーズについての把握
自分たちの体験をもとに、学生のもつ相談ニーズについてサークルで話し合いが行われた。
大学に入学してから自分自身がちょっと聞きたいと思ったこと、大学生活でわくわくしたこと、
友人が言っていた内容を思い出して話し合いが進められ、以下の項目がニーズとしてまとめられた。

- 履修の仕方（編入生・新入生）
- 健康診断の場所がよくわからない
- 大学での勉強の仕方
- レポートの書き方
- 証明書のもらい方
- 試験への対応の仕方
- 教育実習における不安
- 実習ノートの書き方
- ボランティア活動への参加
- はじめて一人暮らしをすることへの不安
- サークルについて
- 友人関係に悩んでいるもの
- 友達がいない
- 不安だが、何を相談したらよいかわからない
- 大学生活では何をしたらよいかわからない

これらの意見の中から自分たちにできる支援。自分にできる支援を考え活動として取り組んだ。特に、
自分のよく知っている分野を互いに開示し、自分の
手に負えない内容や分野については、得意とする学
生を紹介するなど細かい打ち合わせを行った。

5.4 支援ニーズと自分たちにできるピア・サポートはどのようなものがあるかをすり合わせ、具体的活動計画を作成

表1はピアヘルパーとして活動できる内容を5.2の支援ニーズから考えて作った年間活動計画
である。

これら以外、友人関係などについては常時対応で
きるように考えた。特に4月、5月はキャンパス内
で一人ぼっちになっている学生に積極的にかかわる
ことや、先生方から個別に支援を頼まれた学生に対
してフォローできるような形をとることを確認した。
昼休みやの講義受講者が少ない火曜日の1・2時限
目を活動時間として位置づけ、学生が自分たちの空
き時間に活動できるよう配慮した。
表1 ビア・サポート年間活動計画（24年度）

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>支援の重点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4</td>
<td>1年生健康診断時の案内など</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>教育実習を中心にして</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>教育実習を中心にして</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>前期テスト対策</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>ビアヘルパー資格テスト対策</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>ビアヘルパー資格テスト対策</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>ゼミ選択に対する支援</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

5.5 ビア・サポートについての広報活動
ビア・サポートは必要とする人たちの相談があったこそ成り立つ活動である。まず、そのような活動団体があることを全学生に知ってもらう必要がある。ニーズがあり、比較的広報の機会もある1年生を重点に選、ビア・サポート体制があること、活動団体としてのサークルの存在を作ビールした。
(1) 1年生に対するビア・サポートのチラシを作成し、配布する。
(2) フレッシュマンセミナーにおいてビアヘルパーの紹介をする。
(3) ビアヘルパーの折りの活動内容を知らせ、関心をもってもらう掲示物（8号まで発行）を作成する。
(4) 活動トピックがある時には都度掲示物で呼びかける。
(5) 学園祭に参加し、全学生にアピールする。などの基本を求実行することとした。

5.6 研修活動の充実
ビアヘルパーの資格試験は、理論についてのみのテストであり、実技テストはない。理論を生かして活用するためには日ごろからのスキルトレーニングの機会を設けることが大切である。研修活動を充実させるため、サークルメンバーで行う研修会と外部研修会への参加を研修の2つの柱とした。

(1) サークルメンバーで行う研修
① 日々の活動の中では、日本教育カウンセラーサイド編「ビアヘルパーセラピー」をテキストとして使用し、研修する。このワークブックは大学でよくみられる相談事例とアサーションで構成されておりスキルトレーニングが行いやすいように構成されている。必要に応じて内容を選びながら学生がヘルパー役とヘルピー役をロールプレイングすることで、体験的に技術を深めることができる。
② プリーフセラピー研修会
ビアヘルパーセラピーとして外部講師を招いて研修を行った。ポスターを作り、全学生に参加を呼びかけた。プリーフセラピーの理論と技法はビア・サポートを行う上で有効と考えたことによる。
講師：古見紀久子
内容：プリーフセラピーの理論・技法について
場所：植草学園大学 ゼミ室13
日時：平成24年9月20日
13:30～15:30

(2) 外部研修会への参加
24年度、ビア・サポート研修会が植草学園大学で行われたのでその研修会に参加することをした。その内容等基礎理論研修会とビア・サポートトレーナー要請フォローアップ研修会の2つである。
① 日本ビア・サポート学会所属のコーディネーター4人による基礎理論研修会への参加。
（＊ビア・サポートトレーナー養成ワークショップin UEKUSA）
日時：平成24年5月3日・4日 9:00～16:00

表2 基礎理論研修会内容

<table>
<thead>
<tr>
<th>研修類</th>
<th>研修内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>ビア・サポート概論</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>自己理解・他者理解・動機付け</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>コミュニケーションスキル</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>問題の解決</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>対立の解消</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>危機対応とスーパービジョン</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>個人ブランニングと活動の実際</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>プログラム導入ためのデザイン</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>研修・評価/プログラムの維持とメンテナンス</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>フリーディスカッション&amp;質疑応答</td>
</tr>
</tbody>
</table>
場所：植草学園大学 講義室 9
講師：学会認定コーディネーター
大木みわ・田辺昭雄・矢代幸子・根本栄治
これらの研修に参加できなかった部員に対しては、参加した者が後日講義を行った。
② ピア・サポートトレーナー養成フォローアップ講座への参加
日時：平成24年8月11日 9：00～16：00
場所：植草学園大学
講師：学会認定コーディネーター
大木みわ・田辺昭雄・矢代幸子・根本栄治

表3 ピア・サポートトレーナー養成フォローアップ講座

<table>
<thead>
<tr>
<th>研修類</th>
<th>研 修 内 容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>中学校での実践「班長を務めた授業の立て直し」</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>高校での実践「教師間のピア・サポート」</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>「振り返り」と「再合せ」エンカウンター的にレポートの書き方</td>
</tr>
</tbody>
</table>

以上1・2の研修をふまえて、4月には表4に示す実技研修の予定を組む。

表4 実技研修予定（第1土曜日）

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>内 容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4</td>
<td>新入生何でも相談室</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>ピア・サポート研修会参加（3H. 4H）</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>D В D視聴＋S G E</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>D В D視聴＋カウンセリングスキル</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>ピア・サポート研修会参加（11H）</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>プリーフセラピー研修会</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>D В D視聴＋ロールプレイ</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>ピアヘルパー試験対策①</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>ピアヘルパー試験対策②</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>D В D視聴＋S G E</td>
</tr>
</tbody>
</table>

SGE：構成的グループエンカウンター

6．活動の結果と成果

6．1 ピア・サポート活動について

(1) 新入生健康診断支援

事前に学生課・健康管理室と連絡をとり、どこに支援が必要か、どのような配慮をしたらよいかの指導を受けて集める。

○ヘルパーとしての感想

・4月の新入生へのフォローでは、健康診断の場所や講義場所のわからない学生をサポートした。

サポートとして働くのは、照れ臭かったが思ったより新入生から声をかけられて嬉しかった。

・腕章をつけたことで1年生は聞きやすかったのではないかと感じた。立つ場所を考える必要があると思った。

(2) フレッシュマンセミナー支援

フレッシュマンセミナーではヘルパー有資格者の参加はなかった。学生委員会が募ったボランティアとして1人が参加しただけである。履修のありがたな支援者として活動する。

顧問からは、本大学にはピア・サポート活動があることの説明が新入生になされる。履修の仕方などでわからない時、何か困ったことがある時は、是非気軽に頼ってほしいとの説明がある。

24年度はフレッシュマンセミナーで、時間も十分にとって履修説明が行われたので、履修に関しで聞きたいというニーズは少なく開店休業の感があった。

(3) 大学前期テスト対策支援

2日間で延べ18名の学生が参加する。

専攻ごとに幼稚園保育グループと、小学校特別支援学校グループに分かれて実施する。出題傾向や内容についてかなり具体的に情報交換することができる。

○ヘルパーからの感想

・今回の勉強会はとてもためになりました。初めてのテストでお不安でしたが、やる気でございましたし、勉強方法がわかりました。また、専攻ごとに丸くなってやる方法はよい方法だと思います。

人数も少なめだったので大勢の前では聞きにくいことも気軽に聞くことができました。このような会を設けてくださり、ありがとうございました。

・初めての定期テストやレポートの課題にかなり焦りを感じていた私にとって、とても充実したものになりました。先輩方に直接意見をいただいてことで、具体的にどう勉強していけばよい

-108-
のかはっきりしました。今回学んだことを生かして試験に臨みたいと思います。
・今回勉強会に参加して、試験を経験した先輩ならではのアドバイスや勉強の仕方などを気軽に教えていただいたことで、疑問・不安を埋める気になりました。他にも、植物での学校生活がより長い先輩だからこそ聞くことができるお話もあって、とても参考になりました。本当にありがとうございました。
・教員採用試験直後だったため、小学校特別支援グループでは採用試験の話まで聞きました。日々の満義や演習、試験がいかに大切かを4年生が熱く語ってくれたので説得力があった。2年生からはゼミ選びの質問が出ていました。
・幼稚園保育グループでは公務員試験の勉強に話が広がり、4年生の先輩から今使っている問題集を見せてもらいながら話が聞けて良かった。などの感想がある。
　参加者は多いとはいえないので、相談者からの感謝の言葉が見られる。感想からも学生ならではの対応が読み取れる。大学前期テスト対策支援の会であったにもかかわらず、ゼミ選びや、採用試験の話も出ていることから、学生は潜在的には「知りたい」「情報を得たい」という願いを持っていていることが分かる。そのため、聞ける機会に恵まれた時には話が広がっていくのではないかと考える。
○ヘルパーをしての感想
・試験対策支援は初めてなので不安もあったが、みんなの協力で和やかな雰囲気の中進めることことができた。参加してくださった皆さんには感謝。
・私自身、皆さんの大切な姿を見てとても刺激を受けた。
・先輩や友人からのアドバイスをもらえるだけでなく、お互いに悩みや疑問を共有したり解決したりできるよい場だと思うので、このような機会をさらに続けていけるとはと感じた。
・潜在的に、テスト対策などについては不安を持っておられる学生が多くニーズが高いと思った。
ヘルパーを体験した学生は、ヘルパーから刺激を受け、充実感を持ったことが窺える。初めての試みとしては成功したといえる。
(4) ピアヘルパー資格試験対策
どのよう指導の仕方をしたらようか、キーワードを教員から学び、講習会を開催する。
○ヘルパーからの感想
・人数が多くないので家族的な雰囲気で開催できた。緊張せずにすんだ。問題を答えることがあり焦る場面もあったが、なってきた。
・問題ないための「キーワード」や留意点について話した。熱心に聞いてくれたのでよかった。
○ヘルパーの感想
・わからないことを聞きやすかった。
・時間をとってもらえるのがありがたいと思った。
・テストのことを聞くと安心感につながった。
これらの感想から試験会に参加したヘルパーはピアの学生と一緒に勉強することで、勉強の余白がつかめ満足していることがある。また、ヘルパーは、自己有用感や、自己肯定感を高めていることが読み取れる。

6.2 広報活動について
ピア・サポートの存在をみんなに知ってもらう上で大事な活動である。活動の様子を掲示物（サークル広報誌第8号）として作成、掲示したり、植物学園大学ブログにも活動を紹介したりする。どれほどの効果があったか数値で示すことはできないが、確実に認知度は高まっていると肌で感じる。
特に学園祭の「エゴグラムで自分を知ろう」で活動したのは効果的であった。
延べ150人の参加がある。
○参加したヘルパーの感想
・たくさん人が参加してくれたので、嬉しかった。
・活動の甲斐があったと思った。
・準備が大変だった。サークルのみんなが協力をできただった。
・サークルの存在を知ってもらう上で効果があった。
これからも地道に活動を積み上げていくことが大切である。そして「機会は必ず生かす」との意気込みで対処していくことがサークルメンバー全員に望まれる。
6.3 研修会について
(1) 外部研修会に参加して学んだこと
・外部研修会では、現場の先生方や、相談業務に
携わっている方たちとも一緒に研修を受けて、演
習が多くあったのでいろんな方たちとお話ができ
て、いろいろな考え方を学べて勉強になった。
・皆さんが積極的に参加しているので、自分も自
己開示がやすかった。話もよく聞いてもらえ
た。
・講師の先生方の熱い気持ちが伝わってきた。楽
しく充実した研修会になった。
・「問題の解決」の時間に植草学園大学のピア・
サポート活動を活発にするための方策を問題と
してもらえるように提案した。グループの方々
から、今やっている方向でよいのではないかと
いう意見や、よくやっているといった意見、改
善点の指摘を受けた。真剣に考えてもらって嬉
しかった。
・ブリーフセラピーの研修会ではあたりまえと
思っていたことを実められて、こんな言い方も
あるのだと不思議な気持ちになった。
・カウンセリングでは「認知の仕方」「返し方」で、
こんなにも受ける感じが違うのかと思った。意
外性があった。
・楽しく勉強できた。
(2) 内部研修会で学んだこと
・伝達講習会では、内部研修で習ったことをおさ
らいできてよかった。教えるのと聞くのとは隔
分違うと思った。
・自分たちでの勉強はきついこともあるが楽しい。
これらが想いから、研修会は積極的な気持ちや、
自主的な考えを育てる上で大きな刺激になっている
ことがわかる。しかしながら、内部研修においては
力量のあるリーダー的存在があるかそうで、
質的ものが変化すると思われた。教員の支援を
強化する部分ではないかと考える。
以上、サポート活動したことを学生の感想から述
べてきた。これらの感想から2つの成果をまとめる
ことができる。
① 1年生については、「大学生活に慣れる」とい
う明確なニーズがある。その為、支援の機会も多
くあり、成果もあがった。これは、『時間を取り
いただき、ありがとうございました』という言葉に
表れている。そしてヘルパー役の学生も「緊張
していた参加者の表情がどんどんほぐれ、笑顔に
なっていくのを見るのが楽しい」とやりがいを感じ
ている。支援する学生も成長していることを感
じる。
ピア・サポートは教職員に見えづらい学生生活
上のニーズを拾い上げ、対応できる力がある。
② 24年度の結果から、学生がピア・サポートでき
る場面が明確になってきたと言える。学生が支援
できるものと支援できないものがある。
今年、ゼミ選択支援は中止になった。その理由
として本校のように1つかの学部においては
問題点が多くと学生が判断したからである。学生
一人一人が感じた教員の印象や関係性からのサ
ポートは、客観性のある支援にはなりにくいとい
う見解からの結論である。
③ ヘルパー同士でフォローしあえる関係作りが
できたことである。
ピア・サポートにあたる学生一人一人が自分の
得意な分野を書き出し相談にあたるようにしたこ
と、大学生活の長い戦いが下半期生にと組んで動
くなど、下級生を上級生がフォローする関係が
できたことでサークル内に安心感が生まれた。

7. 今後の活動への展望と問題点
ピア・サポート活動を実施している大学の中には
大学の教育活動の一環として全校的に推進している
ところもある。
法政大学では意欲がある大学生を大学のアルバ
トとして雇用し、10の「コミュニティ」にわけ、教
職員ともに活動している。学習などについても
2011年度からは「学習ステーション」というコミュニ
ティを設け学びの支援を始めている。関西大学で
も「コミュニティ」とよく6つの班にわかれて活動
している。内容はIT（情報技術）利用の手助け、
留学生支援、不安や悩み事の支援である。また、学
生が学習プログラムや教養講座を企画実施する活動
や、地域の小・中学校に出かけて支援にあたると
いった活動に取組んでいる大学もあり、その活動は
多彩である。
このような先行している大学の活動に学びながら、
植草学園大学の特徴を生かした長い活動を探っていくことが大事である。

活動の立ち上げがピアヘルパー資格を取得した学生を中心にしたサークル活動から始まっているので、
同じようにならない面もあるが今後の発展的活動を展開していくためには、以下の課題を解決していく必要がある。

(1) サークルに登録しているメンバーは24年11月現在23名である。内訳は2年生10名、3年生7名、
4年生5名、短大2年生1名である。熱心に活動に取り組んでいるのは少数ながらのメンバーである。
サークルの部長は4年生であったが4年生が実質的なリーダーとして全体を牽引してくれていた。
3、4年生が1、2年生を指導していく体制をしっかり作ることがればピア・サポート活動が安定して繋がっていくと考える。来年度の活動が勝負ともえる。

(2) ヘルパーをしている学生の問題として、名札をかけることに抵抗を示すことがある。自信がない
からなのか、恥ずかしいのか、堂々として学内でポランティアできる誇りを育てていくことが課題である。

(3) 本大学では小学校・特別支援学校教員資格と同じように、ピアヘルパー取得ができることが履修
要項に記されている。しかしながら教職員の間での認知度は低い。大学全体で育てていく視点も必要である。

(4) オープンキャンパスなどで、大学が雇用する学生との違いなど明確にする問題もでている。
今後は学生課など関係課と協議し、具体的活動がしやすい環境を作っていく必要がある。

(5) ピアヘルパー有資格者の積極性と自信をいかに
育てていくかが課題である。そのためには大学内にピアヘルパーが常駐できるスペースがあることが望ましい。

(6) 外部研修会への参加は、単に知識・技術を高めるだけでなく、ピア・サポート活動の意味を確認
できる場となる。また、人間的視野が広がるなど有効である。できるだけ参加しやすいように後押しをしていきたい。

日本学生機構が2010年行った調査では、ピア・サポートについて未実施だが「今後実施したい」という大学は国立で44.4％、私立で50.5％という結果が示されている。この傾向からもピア・サポートはますます重要度が増すと考えられる。

斜めの関係といえるピアは、大学教育や学生生活のニーズを拾い上げることができるし、気軽に相談できるピア体制は世の中の流れとも一致する。

また、こういった力をもった学生を教員として送り出すことができれば、やっては教育現場を変えていくと期待できる。

植草学園大学に、学生によるピア・サポート活動
が根づくよう、これからも応援していきたい。

8. 参考資料

1) 日本教育カウンセラーアクセール編. ピアヘルパーガイドブック. 図書文化社. 2001
2) 日本教育カウンセラーアクセール編. ピアヘルパーギャクルブック. 図書文化社. 2002
3) 日本学生支援機構 学生支援取り組み状況調査
http://www.jasso.go.jp/gakusei_plan/2010t/
(参照 2012. 12. 26)